はじめに

我が国は、昭和58年以来、「留学生受入れ10万人計画」に基づき、留学生受入れのための関連諸施策を総合的に推進し、留学生受入れの拡充に努めてきており、この十数年間に我が国の大学等に学ぶ留学生数は約5倍に増加した。

しかしながら,世界各国から多くの優れた留学生を我が国に一層引きつけるためには,我が国の社会全体が国際社会に対し,より開かれたものとなることはもとより,留学生に対する大学等の入学選考,教育及び奨学金,宿舎など留学生の学習・生活面に直接係わる課題を早急に改善・充実していくことが必要である。

これらの課題のうち,大学等の入学選考は,我が国に留学するに当たって,留学生が最初に直面するハードルであり,我が国への留学に極めて大きく影響を与えるものである。

我が国への留学希望者に対する入学選考の手続や方法は、欧米諸国に比し、必ずしも分かりやすいものではなく、留学希望者に過度に負担を強いており、このことが我が国への留学を躊躇させる要因の一つであるとの指摘が、従来よりなされているところである。さらに、平成11年3月の「留学生政策懇談会」(文部大臣裁定、平成8年12月27日発足)の提言「知的国際貢献の発展と新たな留学生政策の展開を目指して」においても留学生の入学選考の改善が指摘されたところである。

このような状況を踏まえ,本協力者会議では,優れた留学生を世界各国からこれまで以上に我が国に引きつけるために,留学生に対する入学選考について,その改善方向と選考試験の在り方等について議論を行い,平成11年9月に,中間報告を取りまとめた。 このたび,中間報告に対する各方面の意見等を参考にしつつ,「日本留学のための新たな試験」について,その内容,実施方法,実施体制等について,具体的な検討を重ね,「日本留学のための新たな試験について ・渡日前入学許可の実現に向けて・」として取りまとめを行った。

今後,本報告書を踏まえ,「日本留学のための新たな試験」が広く国内外において 実施され,留学希望者,大学等によって積極的に活用されることが望まれる。

1 留学生の入学選考

(1)入学選考の現状

近年,多くの大学では,日本人学生とは別に,私費留学生など留学生のための 入学選考を実施している。留学生のための入学選考では,私費外国人留学生統一 試験,日本語能力試験(1級及び2級)を活用するほか,大学独自の試験(面接, 小論文,日本語・英語・数学・理科・社会等の筆記試験)などが実施されている。

入学選考に課される試験は大学により異なるが,日本語をはじめ2科目以上の 試験を課している大学が多く,留学希望者は渡日後,日本語教育施設で1~2年 間,日本語や基礎的な教科・科目の受験勉強を行うのが通例となっている。

また,大学に入学し得る日本語力を有していても,私費外国人留学生統一試験や大学独自の試験の受験のためにほとんどの場合,渡日する必要があり,渡日前に入学許可が得られることは極めて少ない。

大学院についても、留学希望者が、書類選考等で渡日前に正規課程への入学許可が得られるケースは極めてまれであり、渡日後、まず、研究生として一定期間指導教員の研究指導を受け、入学選考試験を経て、大学院正規課程に入学するケースが多い。

私費外国人留学生統一試験

私費外国人留学生統一試験は、大学学部に入学を希望する者を主たる対象に、基礎学力を測定するための試験として、昭和45年(1970年)から財団法人日本国際教育協会が実施しており、毎年1回、12月に行われている。現在、国内3都市に加え、平成7年(1995年)から海外2か国(タイ及びマレイシア)においても実施している。

試験の構成は,我が国の高等学校学習指導要領に準拠し,理系は数学(配点: 150点),理科(物理,化学,生物から2科目選択,配点:150点),外国語(英語,配点:100点)の3教科4科目,文系は数学(配点:100点),地理歴史(世界史,配点:150点),外国語(英語,配点:150点)の3教科3科目となっている。

平成11年(1999年)の国内外の総受験者は,3,573人であった。 なお,平成10年(1998年)の調査では,国立大学の84%,公立大学の69%,私立大学の20%が入学選考に利用している。

日本語能力試験

日本語能力試験は,日本語学習者の日本語力を測定し,認定することを目的と している。

同試験は、1級~4級の級別に行うもので、国内においては財団法人日本国際教育協会が、海外については国際交流基金が昭和59年(1984年)から毎年1回、12月に実施している。

受験者数は年々増加しており、平成11年(1999年)には、国内9都道府県、海外77都市(35の国・地域)で実施され、国内外の総受験者は、166、575人であった。

なお,平成10年(1998年)の調査では,入学選考の際の大学(4年制)の1級の利用状況は,国立大学で84%,公立大学で72%,私立大学で45%となっている。

また,一部の大学では1級のほか2級も利用されている。

(2) 入学選考の課題

米国・英国等の場合,留学生受入れのための語学試験及び基礎学力を測定するための各種の試験が世界各地において実施されており,これらの試験結果と書類により選考を行い,渡航以前に入学許可が得られる。我が国の大学の場合には,私立大学の一部に現地選考やAO(アドミッションズ・オフィス)入試が導入されているとはいえ,一般的には,事前に1~2年間の日本語教育等を日本国内で受ける必要があり,渡日以前に入学許可を得るということは極めて困難な状況にある。

また,大学院については,学位取得を目指す留学生の場合,渡日後半年から1年程度の間,研究生として在籍し,入学選考を経て正規生として入学している。この研究生の期間は,留学生にとっては不安定な地位にとどめられていることや,この間の学習成果も単位として認定されないことなど,様々な問題が指摘されている。

さらに、研究生としての在籍期間等のため学位取得までの期間が欧米諸国への 留学と比較して長くなる傾向にあり、このことが我が国の大学院への留学をため らわせる要因の一つとなっている。

(3)私費外国人留学生統一試験及び日本語能力試験の課題

私費外国人留学生統一試験及び日本語能力試験は,これまでも大学等の意向を踏まえ,適宜,実施方法,内容等について工夫・改善が加えられてきたが,なお次のような課題があり,いまだ,留学希望者及び大学にとって必ずしも利用しやすいものとなっていない。

私費外国人留学生統一試験

- ア ほとんどの国立大学において利用されているが、学部レベルの留学生が多く 在籍する私立大学の利用状況を見ると、前述のように、20%という非常に低 い利用率にとどまっている。また、本試験を利用している 大学にあっても、更 に大学独自の筆記試験、面接等を課すのが通例である。
- イ 現行の私費外国人留学生統一試験は,前述のように理系は数学,理科,外国語の3教科4科目,文系は数学,地理歴史,外国語の3教科3科目が課されているが,大学によっては,必ずしもこれらすべてを必要としないところもあり,このことも私立大学の利用率が低くなっている要因の一つとも考えられる。
- ウ 試験内容が我が国の高等学校学習指導要領に準拠しているため,外国の中等 教育機関で学んだ留学希望者には,特別の学習が必要となるほか,特に「世界 史」では,学習内容等が国によって異なるので,受験者の負担が一層重くなっ ている。
- エ 実施回数が年1回のみで12月に行われているため,学年暦の関係などから

大学や留学希望者にとって必ずしも適切な対応となっていないため、得点等化されたテストを年複数回実施し、より良い結果を利用できるようにすべきであるという意見もある。

オ 現在のところ海外実施は2か国のみであり,海外の留学希望者,入学選考しようとする大学等にとって利用しやすいものとなっていない。

日本語能力試験

ア 現行の日本語能力試験(1級及び2級)は,一般的な日本語の普及を目的とするとともに,留学生の大学入学選考にも活用されている。このため,同試験では,一般的な日本語力の測定と,日本の大学での勉学に対応できる日本語力(以下「アカデミック・ジャパニーズ」という。)の測定が混在して行われている。

このことから,現行の試験は,一般的な日本語力を測定する試験としても,また,アカデミック・ジャパニーズを測定する試験としても,十分に目的を果たしていないとの指摘がある。

- イ 試験の実施回数は年1回であり,私費外国人留学生統一試験と同様の問題が 指摘されている。
- ウ TOEFLのように,得点等化されたテストの複数回受験により得られる成績の中で,上位の成績を利用することができないという指摘もある。

2 「新たな試験」の開発

今後いかに優秀な留学生を多数引きつけていくかということが,我が国の知的 国際貢献の根幹となるところであるが,留学の入口である入学選考の段階で,欧 米諸国への留学に比べ留学希望者にとって上述のような大きな負担がある。

さらに,私費外国人留学生統一試験及び日本語能力試験については,前述のように様々な課題や問題点も指摘されているところであり,今後,留学生としての適性をより的確に評価しうる統一的な「新たな試験」の開発・実施に早急に取り組む必要がある。

また,「新たな試験」は渡日前の入学許可を想定したものとする必要があることから,各大学における自発的かつ積極的な利用が何より不可欠となる。

なお,各大学の入学選考の現状等から,「新たな試験」を利用した入学選考システムを幾つかの大学においてパイロット的な形で始めることも有効と考えられる。

(1)学部

現行の私費外国人留学生統一試験及び日本語能力試験の 2 種類による試験ではなく,留学希望者を対象とした 1 種類の試験とする。

試験の内容は,大学において教育指導を受けるのに必要とされる日本語の理解

力,表現力及び専門分野の基礎的な学力等,日本留学のための適性を総合的に評価することを目的とする。

国内のみならず、広く海外において実施することを前提とし、年複数回の実施及び試験の成績結果の複数年利用についても考慮する。

(2)大学院

近年,アジア諸国などでも学部レベルを中心に高等教育機関が徐々に整備されつつあり,我が国への留学の重点も学部から大学院に移りつつある。このような留学希望者のニーズに積極的にこたえていく必要があるが,前述のように大学院正規課程の渡日前入学許可は極めて例が少ないので,各大学院においては,書類選考等による正規課程への渡日前入学許可の実施に積極的に取り組む必要がある。

大学院は、その専門分野により求められる能力及び条件が多様であり、また、 大学間で研究指導教員を主体とした情報交換等による受入れの連携などもあることから、大学院レベルのために特定した「新たな試験」の開発は行わず、大学院 独自の選考に委ねるものとする。

なお,この場合にあっても日本語力について判断するための試験として,「新たな試験」を有効に活用されることが望まれる。

(3)渡日前入学許可の推進

渡日前入学許可の普及には,各大学の積極的な取り組みが前提となるが,具体的には,「新たな試験」を基礎として留学生の中等教育機関における成績,大学入学のための統一試験,TOEFLの成績等の書類選考により,渡日前に入学を許可するシステムを開発していくことが必要となる。同時に,文部省及び関係機関にあっては,書類選考の基礎となる諸外国における関連情報の収集を行うとともに,各大学の取り組みへの支援を行う必要がある。

なお,海外における「新たな試験」の実施が拡大されるようになれば,その結果の活用により,渡日前の入学許可が一層促進されることが期待される。また,将来的には,米国のAO(アドミッションズ・オフィス)のように,全学的に留学生の入学選考を一元的に行う機能を有する組織体制の整備が望まれる。

3 「新たな試験」の基本的な内容

(1)「新たな試験」の構成

「新たな試験」は日本語力及び基礎学力を評価するものとする。

日本語力については,アカデミック・ジャパニーズをシングルスケールで測定する。

基礎学力については、我が国の大学において教育指導を受けるに当たって必要とされる専門分野の基礎的な学力を測定する。

試験の内容は、我が国の中等教育の学習指導要領に沿ったものとするが、各国の留学生の異なる学習歴を考慮して、その内容に工夫を加え、精選することとする。

試験の構成は、理系にあっては数学及び理科(物理・化学・生物)、文系にあっては数学及び文系のための総合科目とする。総合科目では、我が国の大学での勉学に必要な文系の基礎的な学力、特に思考力、論理的能力を測るものとする。

また,大学によっては,留学生の基礎学力を評価するに当たって,必ずしも現行の私費外国人留学生統一試験の教科・科目すべてを必要とせず,特定の教科・科目のみで良いとするところもあり,このような大学のニーズにこたえるため,「新たな試験」においては,特定の教科・科目のみの受験も認める,いわゆる選択制を導入する。

なお,英語については「新たな試験」では実施しないこととし,必要に応じて 各大学等においてTOEFL等の活用を図る。

(2)「新たな試験」と私費外国人留学生統一試験及び日本語能力試験との関係 私費外国人留学生統一試験は,「新たな試験」の開始年の前年の実施をもって 廃止することとする。

アカデミック・ジャパニーズの測定については,現行の日本語能力試験(1級~4級)の利用に代えて「新たな試験」において,実施することとする。

4 「新たな試験」の実施体制と実施方法

(1)実施体制

シラバス及び試験問題の開発

「新たな試験」のシラバスについては,日本語教育,基礎学力,教育測定等の専門家による研究・開発を行ったが,引き続き,試験問題について,大学等関係機関の協力を得ながら,開発,作成,評価等を進める。

また,年複数回実施を行うことから,得点の等化を行うとともに,複数年度を通して,素点ではなく,共通の尺度上で成績を表示することによって,受験者の成績評価に公平を期すものとする。

なお,「新たな試験」のシラバス及び問題例については,「6 シラバス及び問題例」のとおりである。

試験の実施

試験問題の作成・評価及び試験の国内実施については,財団法人日本国際教育協会が文部省,大学及び関係機関並びに各分野の専門家の協力を得て行うこととする。

また,海外実施については,外務省が国際交流基金及び現地の関係機関等の協力を得て,実施することを検討する。

(2)基本的な内容,実施方法

名 称

「新たな試験」の名称は,「日本留学試験」とする。

目 的

外国人留学生として,我が国の大学(学部)等に入学を希望する者について, 日本語力及び基礎学力の評価を行う。

対 象

外国人留学生として, 我が国の大学等に入学を希望する者

実施時期及び実施回数

国内外ともに,平成14年(2002年)から,毎年,6月と11月の2回実施する。

実施地

国 内 : 北海道,東北,関東,中部,近畿,中国,九州,沖縄の各都市で実施する。

海 外: アジア地域を中心に, 当面, 10都市程度で実施する。

試験科目等

ア 試験科目,試験時間

文 系 : 日本語(120分),総合科目(80分),数学(80分)

理 系 : 日本語(120分),理科(物理・化学・生物から2科目選択,80

分),数学(80分)

イ 各試験科目の目的

日本語: 日本の大学での勉学に対応できる日本語力(アカデミック・ジ

ャパニーズ)を測定する。

基礎学力

・数 学: 日本の大学での勉学に必要な数学(文系・理系)の基礎的な学力を測定する。

・理 科: 日本の大学の理系学部での勉学に必要な理科(物理・化学・生物)の基礎的な学力を測定する。

・総合科目: 日本の大学での勉学に必要な文系の基礎的な学力,特に思考力, 論理的能力を測定する。

ウ 各試験科目の配点の比重

文系において,日本語・総合科目・数学の配点の比重は,4:2:2とする。 理系において,日本語・理科・数学の配点の比重は,4:2:2とする。

エ 大学等による試験科目の選択

大学等が,「新たな試験」を留学生の入学選考に利用する場合,当該大学等は,入学選考に必要とする特定の試験科目を,アの試験科目の中から指定し,その特定の試験科目のみを留学生に受験させることができるものとする。

* 大学等は,理科3科目のうち2科目を指定する。

* 数学は,文系学部及び数学を必要とする程度が比較的少ない理系学部用をコース1,数学を高度に必要とする学部用をコース2とし,大学等は,

どちらかを指定する。

出題言語

日本語及び英語により出題する(日本語の科目は日本語による出題のみ)。日本語による出題においては、外国人名、専門用語等に英語を付記する。

なお,試験問題冊子は,日本語,英語とで,それぞれ別の冊子とする。受験者は,出願の際にどちらを選択するか申請するものとする。

解答方法

- ・日 本 語:多肢選択方式(マークシート)及び記述式とする。
- ・基礎学力:多肢選択方式(マークシート)とする。

試行試験

平成13年(2001年)11月,国内外において,日本留学希望者等を対象に,試行試験を実施する。

試験問題の公開

試験問題は,原則として,公開とするが,公開の時期・方法等については,今後,更に検討する。

また,試行試験の問題は,原則として,公開とする。

受験料,出願方法,成績通知

受験料,出願方法,成績通知については,現行の私費外国人留学生統一試験及び日本語能力試験を参考に,今後,検討を行う。

その他

「新たな試験」の内容,実施方法,構成等については,今後の実施状況を踏まえ,必要に応じて見直していくものとする。

5 その他

(1)渡日前予約奨学金制度の創設

渡日前入学許可を推進していく上で、大学側からの積極的な参加を促すとともに、より多くの優秀な留学生を確保する観点などから、留学希望者の中で、「新たな試験」の成績、中等教育機関での学力成績及び大学入学のための統一試験の成績等が特に優秀な者について、奨学金を渡日前に予約する制度の創設についても「新たな試験」の開発に併せて、早急に検討を進める必要がある。

(2)「新たな試験」に関する情報提供等

「新たな試験」の実施に当たっては、試験の実施方法、構成等「新たな試験」に関する情報提供及び情報収集について、IT(Information Technology)を活用するなど、積極的に行うものとする。この場合、国内においては、文部省、財団法人日本国際教育協会が、また、海外にあっては、外務省、国際交流基金が各々中心となって、関係機関と連携・協力のもとに行う。

さらに,各大学にあっては,入学選考基準等入学選考に関する事項について, 積極的な情報提供を行うため,更なる学内体制の整備・充実を図る必要がある。

(3)「新たな試験」のための支援措置

「新たな試験」の実施に当たっては,文部省,外務省等関係機関が連携・協力し,関連する諸事業の効率化を図りつつ,「新たな試験」の実施に向けた試験問題の開発・評価,実施地域の拡大及び年複数回実施等に要することとなる経費,人員等の整備・充実並びにITの活用などを図ることについて検討をしていく必要がある。

(4)大学入学後の日本語補習の充実

渡日前入学許可を推進していく上で、大学入学後の日本語力の不足を補うため に、日本語補習が不可欠となる。

そのためには、留学生センター等の学内の組織の有効活用、学外の日本語教育施設との連携、さらには、ランゲージ・センターの設置等、日本語補習を十分に行えるよう一層の学内整備を図り、それに関する施策を早急に検討する必要がある。

さらに,日本語教育施設との連携を円滑に進めるためには,単位の認定,在留 資格などの問題についても今後検討する必要がある。

(5)海外での日本留学のための日本語教育の普及

現在,海外における日本語教育については,各国の教育機関や民間の日本語学校等において行われているほか,国際交流基金海外日本語センター等において中・上級を主体とした日本語教育が実施され,多くの学習者が一般的な日本語を学んでいる。

今後,我が国が留学生を多く受け入れていくためには,海外においても日本留学のためのアカデミック・ジャパニーズに特化した日本語教育の普及を図ることが必要である。

6 シラバス及び問題例

目 次

日本語シラバス	• 11
日本語問題例	· 17
基礎学力(数学)シラバス	
数学問題例	. 35
基礎学力(理科)シラバス	. 36
物理シラバス	37
物理問題例	. 36
化学シラバス	
化学問題例	
生物シラバス	46
生物問題例	49
基礎学力(総合科目)シラバス	. 51
総合科目問題例	53

日本語シラバス

試験の目的

この試験は、外国人留学生として日本の高等教育機関、特に大学学部に留学を希望する者が、日本の大学での勉学に対応できる日本語力(アカデミック・ジャパニーズ)をどの程度習得しているかをシングルスケールで測定することを目的とする。

なお, 試験は, 聴解, 聴読解, 読解及び記述により出題する。

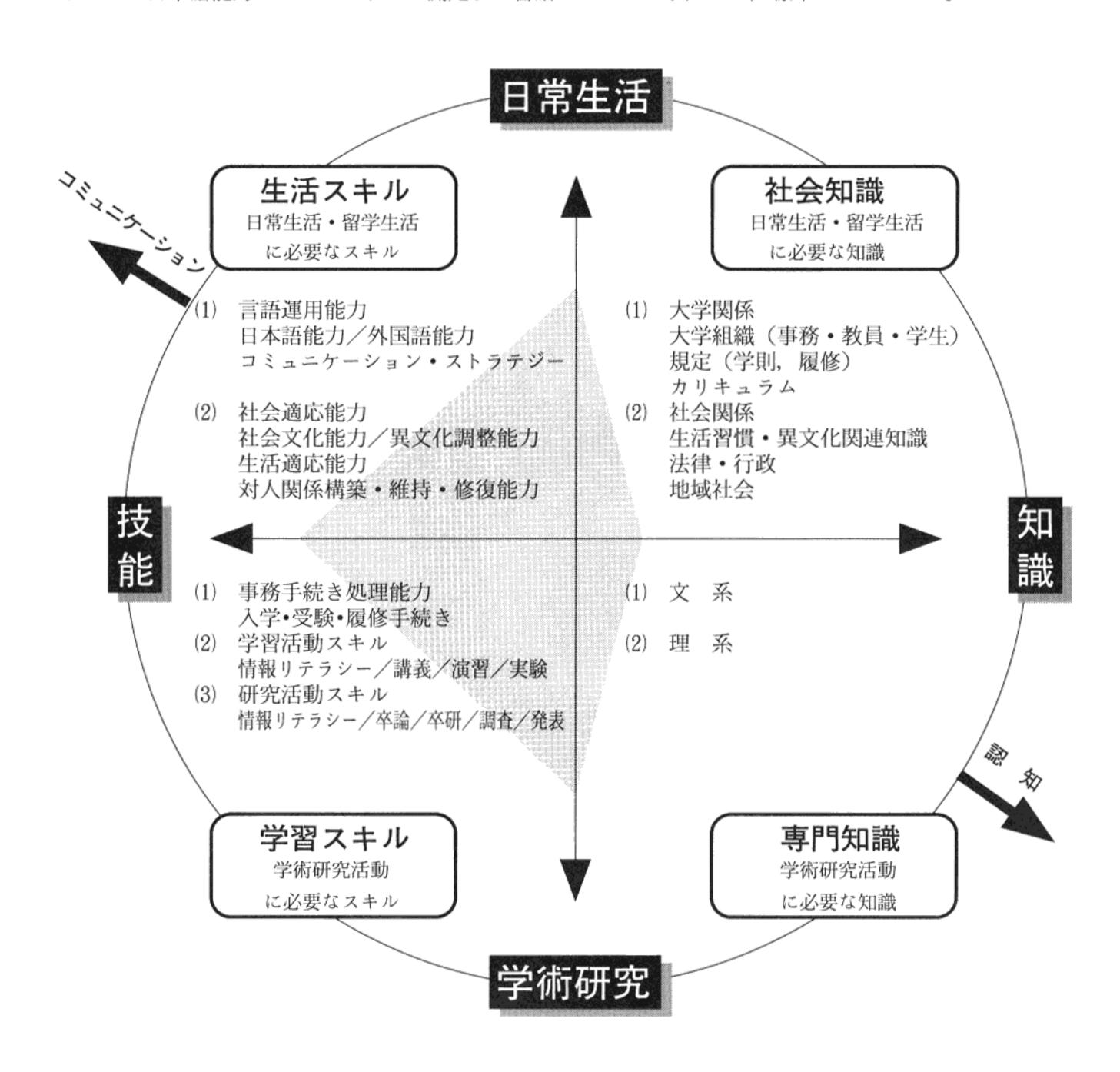
日本語シラバス

I 測定対象能力

この試験が測ろうとする能力は、下記概念図の網かけ部分である。

この試験は、単に日本語に関する知識の有無や知識の量を測定するアチーブメント・テストではない。また、日本での生活能力があるかを測る人格テストでもない。

この試験は、日本での留学生活をおくる上で、日本語によるコミュニケーション能力があるかどうか、また、自国での初等・中等教育修了までに習得した知識を前提としながら、日本の大学で学習・研究活動を行うための日本語能力があるかどうかを測定する言語テストであり、かつ、標準テストである。



Ⅱ 試験が想定する課題の類型

課題とは、日本に留学するに当たって、あるいは、日本の大学に入学後に直面する現実的な諸課題の総称である。課題には、単純なものもあれば、複雑なものもある。生活に関するものもあれば、勉学に関するものもある。また、いくつかの課題が複合的に生ずることもある。以下、課題の類型の大枠を示す。

- 1. 指示を実行する。
- 2. 事物を特定する。
- 3. 事物を描写する。
- 4. 事物を比較・配列する。
- 5. 物事の推移・展開を予測する。
- 6. 物事の背景や意図を把握する。
- 7. 物事を構造化し、法則性を発見する。
- 8. その他

Ⅲ 試験で要求される言語技能

日本での留学生活の中で遭遇する諸課題を解決するために必要となる言語技能を以下に示す(*「話す」 「翻訳する」については部分的ないし間接的測定となる。)。

- 1. 聞く
- 2. 話す*
- 3. 読む
- 4. 書く
- 5. 翻訳する*

IV 試験で要求される言語下位技能

上記の5つの言語技能の下位技能として,以下の類型が考えられる。

- 1. 情報の全体の流れをとらえる。
- 2. 情報の全体を、ある判断や評価をしながらとらえる。
- 3. 特定の情報を抽出してとらえる。
- 4. 推測しながら情報をとらえる。
- 5. 予測しながら情報をとらえる。
- 6. その他

V 試験に含まれる表現類型 (テクストタイプ)

表現類型(テクストタイプ)とは、留学生の言語生活を取り囲む様々な言語表現の類型である。表現類型には、書きことばとして、手で書かれたり印刷されたりするものもあれば、話しことばとして、直接人々の口から発せられるものもある。

たとえば、手紙の書き方にしても、お祝い、お見舞い、招待、通知、依頼、お礼、謝罪、年賀状など、その表現には様々な類型がある。電報、ファックス、テレックス、社内文書、公文書、掲示物、論文、随筆、小説、詩歌などもそれぞれ固有の類型を持つ。

話しことばについても、自己紹介、依頼、謝罪、指示、電話の応対、慶弔のあいさつ、講義、演習、スピーチ、報告、司会、アナウンス、物売りの掛け声、放送の話し方、朗読など、それぞれ独特の型を持っている。以下、表現類型の具体例を示す。

1. 書きことば

- 標示・標識・看板・掲示類
- (2) 標語・ポスター類
- (3) 宣伝・広告の文書
- (4) カタログ, パンフレット類
- (5) 事務書類(各種書式)
- (6) 新聞,雑誌,学会誌,学術論文などの記事・広告・案内
- (7) 手紙,はがき,創作物類
- (8) 板書・メモ類
- (9) 図表,カード類
- (10) 各種書籍•文献
- (11) 各種辞典類

2. 話しことば

- (1) 対人関係作り・維持に関するもの
- (2) 指示・命令に関するもの
- (3) 事物や人物の記述・メタ言語に関するもの
- (4) 架空の世界に関するもの
- (5) 放送メディア (ラジオ・テレビなど) に関するもの
- (6) 公共アナウンスに関するもの
- (7) 街頭アナウンスに関するもの
- (8) スピーチ
- (9) 講義・演習・実験・フィールドワークなどに関するもの
- (10) 打ち合せ・討論(会議,シンポジウム,意見交換など)に関するもの
- (11) 面接・インタビューに関するもの
- (12) その他

VI 試験にあらわれる話題 (トピック)

話題には、場面の制約を受けるものと受けないものとがある。また、話題と場面の関係には、偶然的な関係と必然的な関係がある。偶然的な関係とは、どこにいても話すことができる話題(人物について、生きがいについてなど)のように、話される話題と場面との必然的な結び付きが希薄なもののことである。

他方,ある特定の場面ではある特定の会話が行われるという場合(郵便局,駅,旅行代理店での会話など)には,話題と場面の間には必然的な関係がある。その意味で,場面という概念は,複合的なものであり,人物,時,背景(場所)とともに,話題もまた,場面を構成する一要素であると言える。

話題は場面に応じて絶えず変化する。以下にリスト化された話題だけでなく、話題そのものを作り出す、 あるいは、発展させていける技能も重要なスキルとなる。

以下, 留学生を取り巻く話題を列挙する。

- 1. 紹介と確認
- 2. 大学•学習環境
- 3. 住宅
- 4. 住宅の近隣社会
- 5. 広域の地域社会
- 6. 文化遺産
- 7. 個人に関して(家族,社会的側面,学習的側面,経済的側面,レジャー活動,価値観など)
- 8. 自国と日本との二国間関係,及び,グローバルな国際関係
- 9. 自国と日本の社会・文化との差異(以上に挙げたものについて,その類似点と相違点)
- 10. 言語表現の差異(時刻の表現,曜日,月名,天候と季節,安全対策,重量,大きさ,尺度,通貨,礼儀,同意,不同意,遺憾,驚き,興奮,喜びなどを表す定型表現など)

VII 試験にあらわれる場面(場所,時間,対人関係,対人形態,媒体など)

場面は、コミュニケーションが行われる場所、時間、形式、対人関係、話題などによって複合的に構成されるものである。

- 1. 場 所
- 2. 時間•時期
- 3. 対人関係
 - (1) 個人的属性(性,年齢,世代,言語,国籍,職業,職種,地位など)
 - (2) 価値観(個人主義的,相互依存的,若・老年志向,男女平等,民主主義・権威主義的など)
 - (3) 社会的関係(上・下の関係、ウチ・ソトの関係、公私の関係など)
 - (4) 心理的関係(親疎の関係,丁寧な関係,緊張・恐怖感,敬意を感じる関係など)
- 4. 対人形態
 - (1) 接触形態(必然・偶然,受動的・能動的,定期的・不定期的,損益など)
 - (2) 対人形態(1対1,1対特定多,1対不特定多,多対多など)

5. 媒体

- (1) 一方通行型の媒体 (放送メディア、出版メディア、掲示メディア、メディアのソフト、アナウンスなど)
- (2) 双方向型の媒体(対面,電話などの対面型通信メディア,手紙などの非対面型通信メディア)

Ⅷ 試験にあらわれる言語的要素 (テクスト関連)

- 1. 日本語の文法
- 2. 日本語の音声
- 3. 日本語の文字・表記
- 4. 日本語の語彙
- 5. 日本語の文章・談話
- 6. 各種略語 記号 外国語

IX 試験にあらわれる非言語的要素(視覚情報関連)

- 1. 写真
- 2. イラスト
- 3. アイコン (絵文字)
- 4. その他

X 試験の課題を達成するために前提となる知識

1. 文系の知識

- (1) 世界史(世界と日本,世界の地域と日本,地球社会の形成,今後の世界と日本,その他)
- (2) 日本史(近代日本の形成,日本の歩みと国際関係,現代の日本と世界,その他)
- (3) 現代社会(現代人の課題,現代の社会と人間としてのあり方・生き方,その他)
- (4) 倫理(青年期の課題と人間としてのあり方・生き方,現代と倫理)

2. 理系の知識

- (1) 数学基礎(数学と人間の活動,社会生活における数理的な考察,その他)
- (2) 理科基礎(自然の探求と科学の発展,科学の課題とこれからの人間生活,その他)

日本語 問題例

【聴解】

⑤ I 新入生の二人がサークルについて話しています。男の人は、どのサークルに入りますか。

女:ねえ,山田君,サークル決めた?

男:うーん,どうしようかな。佐藤さんは?

女:私? 私はテニス。ねえ,一緒に入ろうよ。

男:テニスかあ。テニスは、ちょっとねえ(乗り気じゃない)。

女:そう? 高校のとき,何してたの?

男:高校?サッカー。

女:じゃ,サッカーやったら?

男:うん,でも,新しいこと,やってみたいしなー。

女:ふうん。たとえば?

男:うーん,スキーとか,ヨットとか……。

女:あ,かっこいいよね。でも,スキーもヨットも部費,高いってよ。

男:そっか。おれ、金ないしなあ。

女:じゃ,やっぱり……。

男:うん。やっぱり続けるか。高校ん時の先輩もいることだし……。

男の人は, どのサークルに入りますか。

1 テニス

2 サッカー

3 スキー

4 ヨット

「○○ II 学生が,指導教授のところに,サークルの顧問になってほしいとお願いに来ています。 テープ サークルの顧問は,どうなりますか。

(ノックの音・トントン)

教授:はい、どうぞ。

学生: 失礼します。

教授:何か用?

学生:あの一,山田先生,ちょっとお願いが……。

教授:何?

学生:あの一,先生にサークルの顧問をお願いしたいんですが……。

教授:サークル?

学生:あ,はい,「国際交遊会」っていう,留学生の会なんです。

教授:ほう,面白そうな会のようだね。

うーん, でも, 顧問はちょっとね……。

学生:だめですか。

教授:うん,今年は,外国出張が多くて,留守が多いからね。

学生:はあ。

教授:田中先生は?もう,聞いてみた?

学生:はい、だめだそうです。ですから、何とか先生にお願いできないかと……。

教授:うーん,ちょっと,余裕ないなー。他をあたってみてよ。

学生:そうですか(がっかりした様子)。

じゃ、また、だめだったら、ご相談にのっていただけますか。

教授:うん、相談ならいいんだけど、顧問はね、やっぱり、ちょっと……。

学生:わかりました。どうも、ありがとうございました。

サークルの顧問は、どうなりますか。

1 山田先生に顧問をしてもらう

2 田中先生に顧問をしてもらう

3 別の先生に顧問を頼む

4 山田先生に顧問を頼む

【聴読解】

(する) Ⅲ 大学の講義の最後で、教授が指示を出しています。 テープ どのテレビ番組を見たほうがいいと言っていますか。

> 教授: えー,以上,急ぎ足で,日本経済を通時的にみてきたわけですが,もう少し,別の 視点から捉えることもできます。今日は,ちょっと,時間がないので,お話しでき ませんが,今晩,たしか,衛星第2テレビだったと思いますが,ちょうどいい番組 があるので,興味がある人は是非参考にしてください。特に,近代史は,多角的な 視点から経済現象を検討しなければいけない領域ですから……。

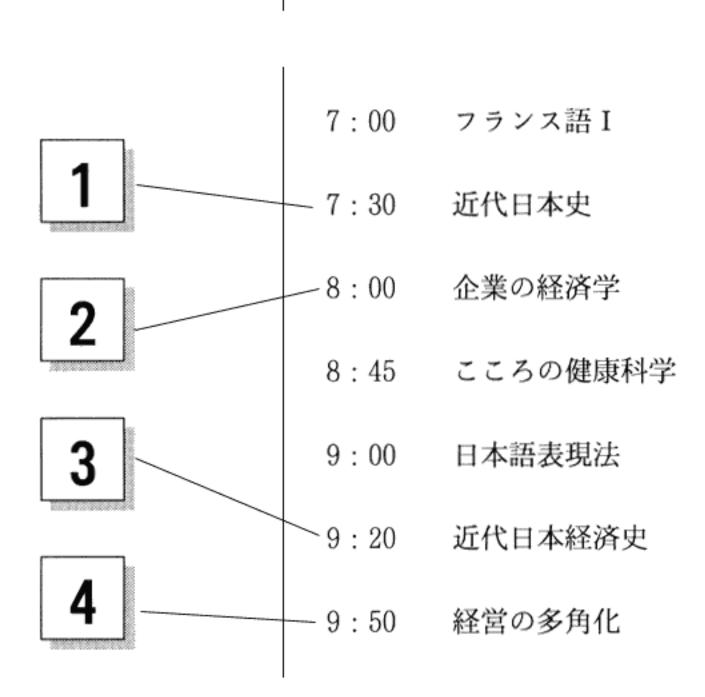
それでは、質問がなければ、今日は、この辺で……。

どのテレビ番組を見たほうがいいと言っていますか。

BS11 衛星第2テレビ

6:00 朝のクラシック

6:20 福祉行政



【聴読解】

の IV 女の人が図書館で図書館員と話しています。

女の人は, あと, 何冊, 本を借りられますか。

女: すみません。

男:はい。

女:あのう,何冊,借りられるんですか。

男:えーと、院生ですか。

女:いいえ,学部生です。

男:一応,この表に書いてあるんですけど。

女:あ、ほんとだ。

男:今,借りてる本,ありますか。

女:はい。 男:何冊?

女:えー,何冊だったか……。

男:利用証,ありますか。今調べますから。

女:あ,はい,すみません。

男:えーと、ああ、4冊ですね。

女: 4冊ですか。

男:ええ。ですから、後……。

女の人は, あと, 何冊, 本を借りられますか。

館外貸出の冊数と期間

6 册

4 冊

3 ∰

対 象 貸出区分 册 数 期間 者 1ヵ月 义 教 員 12∰ 学 院 1 週間 生 定 义 指 書 大学院研究生 雑 誌 3 日 3∰ 般 2 週間 义 書 6冊 学 部 生 定 指 义 書 1 週間 学部研究生 雑 誌 3冊 3 日

2 册

【聴読解】

⑤ V 学生寮で、女子学生が話しています。

テーブ 二人は、このあと、どこへ行きますか。

(ドアをノックする音)

女1: はーい, 誰?こんな朝早く……。 まだ, 9時前だっていうのに。

女2:あー, せんぱーい,

女1:あれ、どうしたの?

女2:歯が……痛くて……。(苦しそうに)

女1:あー、こんなにはれちゃって。大丈夫?

女2:いえ,ちょっと……。

女1:歯医者,行ったほうがいいよ。

女2:でも、やってますか。

女1:あ,今日,日曜か。どうしようか。えーっと。あ,でもちょっと待って。(ごそごそ探す)

女2:ふーっ。

女1:あ,これ,これ。あ,このページだ。

えーと、今日やってる歯医者は……。四つ、ある。すぐ、行くよね。

女2:ええ。

女1:じゃ,近いとこ,近いとこ,……。

えーと、あ、西町だね。

女2:西町?

女1:とにかく, すぐ, 行こっ!

女2:はい。

二人は、このあと、どの歯医者に行きますか。

休日応急歯科診療医(土・日・祝日)

	医療機関名	診療時間	所 在 地	電話番号
2	坂田歯科医院	左前 Q 時 ~ 左後 1 時	西町1-23-13	341 — 1555
3	小林歯科医院	午前9時~午後1時	東町3-3-5	342-0035
	野口歯科医院	左後9時。左後6時	南町3-9-5	342 - 1335
4	山田歯科医院	午後2時~午後6時	西町2-1-5	341 - 0891

VI 掲示板に、来週の授業関係のお知らせがはってあります。

下の履修時間割表をもっている人は、来週、何曜日にテストがあるでしょうか。

学会出席のため休講

教育学特論 4月25日(火)2限 担当者:××

教室変更

社会学演習 I 4月26日 (水) より N 4 0 2 教室に変更 担当者:△△

文法試験

フランス語 4月27日(木) 4限 担当者: ●●

レポート提出期限

心理学概論 4月28日(金)までに 提出のこと 担当者:○○

		2	3	4
月	火	水	木	金
		-144		187 - 774

	月	火	水	木	金	土
1			英語Ⅱ		数学	
2		英語 I	統計学	教育学演習	社会学概論	
3				心理学概論		
4				フランス語		
5					文化人類学	

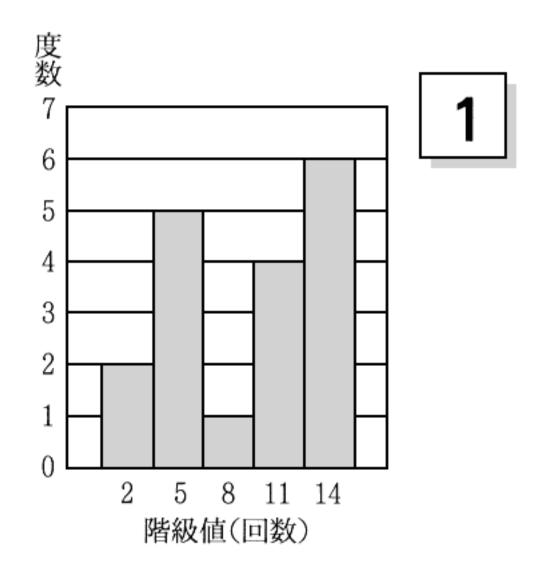
VII ある大学のある専攻で、自宅外通学の新入生20人を対象に、外食の状況調査を行ったら、表1のような調査結果が出ました。さらに、表1から度数分布表を作ると、表2のようになりました。この度数分布表をもとに、棒グラフを作ると、どうなりますか。

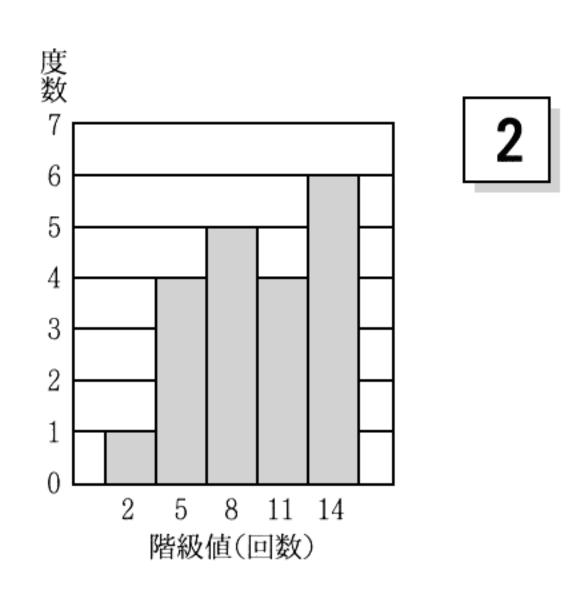
表1:週当たりの外食の回数

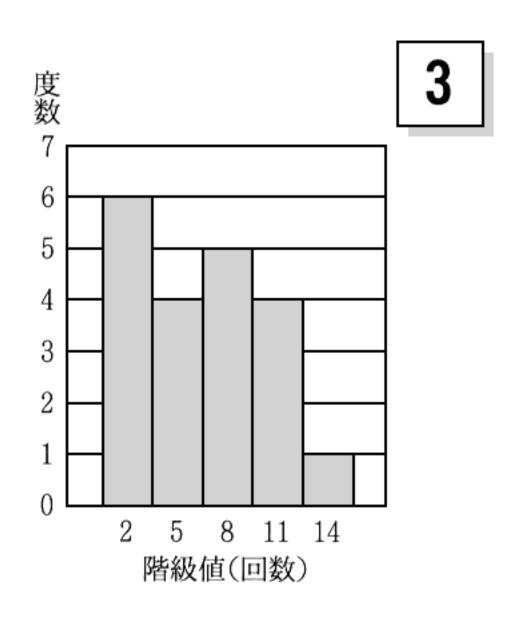
1	3	6	10	7
14	5	9	3	9
11	2	4	10	2
9	5	12	8	1

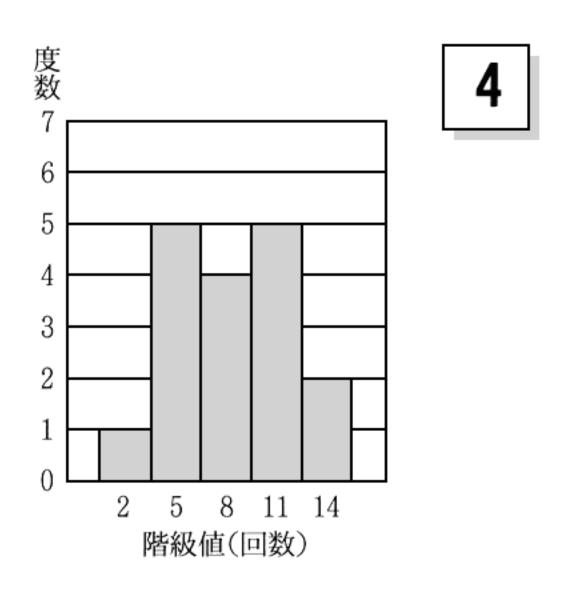
表2:週当たりの外食の度数分布

級	階級値	度数
13 - 15	14	1
10 - 12	11	4
7 — 9	8	5
4 - 6	5	4
0 - 3	6	6
計		20









Ⅷ 次の広告は、ピザのお店のアルバイト募集です。この広告によれば、オートバイの免許を持っている 学生がもらえる時給の最高額はいくらですか。

(資格) 18歳以上で(1) 要原付免許

(勤務) 1日4~6時間・週3~4日でもOK!

(1) デリバリー(9:00~23:00) 900円

*22:00以降 1100円

(2) インストア(9:00~23:00) 800円

*22:00以降 1000円

(待遇) 食事補助・福利厚生充実

土・日▲ (時給) 5 0 円UP !!

応募▲お気軽に電話ください。 電話受付(14:00~17:00)

ピザハウス 画町店

〒184-8801 東山市西町1-5-1桜ビル1F 電話:0142-331-1305

900円

2 1000円 3 1100円

1150円

IX 夏休みに卒業研究の中間発表をかねて、合宿することになりました。ゼミで話し合った結果、次のメモのような条件が出されました。この条件をもとに、インターネットで宿泊する場所の情報を検索したら、次の4つが見つかりました。ゼミのメンバーが求める条件に一番あう場所はどれですか。

ゼミ合宿 ○月○日から2泊3日

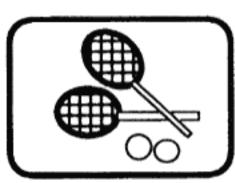
- *温泉がでる
- *海が見える
- * テニスコートがある
- *一泊10,00円まで

ホテルレジーナ 11,000~13,000円(2食付き)









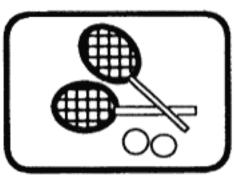


ホテル東海荘 7,500~9,000円(2食付き)

2



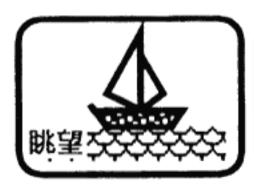




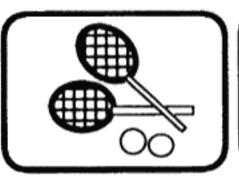


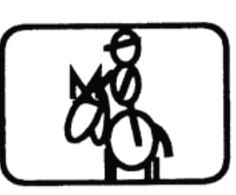
山川ホテル 6,500~7,500円(2食付き)

3







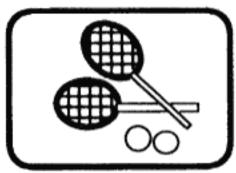


ホテルさくら 8,000~9,400円(2食付き)

4









【読解】

X 次の文章の A , B に入る文として適当なものはどれですか。

最近の日本の大学生はひどい、という声を大学教員からよく聞く。授業中、友人と余計なことを話しているのはめずらしくもなく、マンガを読んでいたり、携帯電話で話を始めたりする学生までいるのだという。学問に対する意欲というものがまったく見られないのだが、そのもっとも大きな理由は、 A

これは、大学に進学することがあたりまえになってしまったからではないか。現在、日本の大学進学率は50%に近づきつつある。みんなが大学に行くから自分も、という、ひと昔前には考えられなかったようなことが平気で起きてしまうのである。

こういう現状にあって, B という意見を耳にすることがあるが,私は賛成できない。大学を変えるのでなく,むしろ学生の大学に対する考え方を変える必要があるのだと思う。

大学とは勉強するところなのだという、この明らかなことを、私は改めて強調したい。そして高校生には、目先の大学受験ばかりに気を取られるのではなく、大学に入ったあと自分は何を勉強したいのかということを、ときにはゆっくり考えるよう勧めたい。

Α

- 1 大学の教員に、授業をわかりやすく聞いておもしろいものにしようとする意欲がまったくないか、 あるいは非常に少ないということである。
- 2 学生の多くは、自分が大学で何を勉強したいのかということを入学前ほとんど考えたことがないと いうことである。
- 3 大学で学ぶことが社会でほとんど役に立たず、いい職を見つけるためには大学以外の学校にも通う 必要があるということである。
- 4 定員よりずっと多くの学生が大学に来ている、ということである。

В

- 1 学生は好きでないことでも我慢してもっと努力すべきだ
- 2 大学は勉強したくない学生を受け入れないようにすべきだ
- 3 授業をもっとおもしろく、わかりやすいものにしよう
- 4 高校生がもっとゆとりをもって勉強できるようにしよう

【記述】

XI 課題型

(論点が1つのもの)(各200字)

- 1. あなたの今までの人生で、一番強い影響を受けた人について、具体的に書きなさい。
- 2. たくさんの人がコンピュータを使うようになって、人々の暮らしがどう変わりましたか。具体的に書きなさい。

(論点が2つのもの)(各200字)

- 3. しごとを決める時,給料が高いことと休暇がたくさんあることと,どちらのほうが大切だと思いますか。 理由を挙げて自分の考えを書きなさい。
- 4. 今の社会では、男であることと女であることと、どちらが良いと思いますか。理由を挙げて自分の考えを述べなさい。
- 5. ある人は、子どもの教育は能力によってグループに分けて行うのが良いといいます。しかし、別の人は無差別なグループ分けが良いといいます。二つの考えを比べて、自分がどちらに賛成するか、自分の考えとその理由を書きなさい。

XII 資料型

(資料を見て短文で答える問題)

1. 表を見て質問に答えなさい。(各20字)

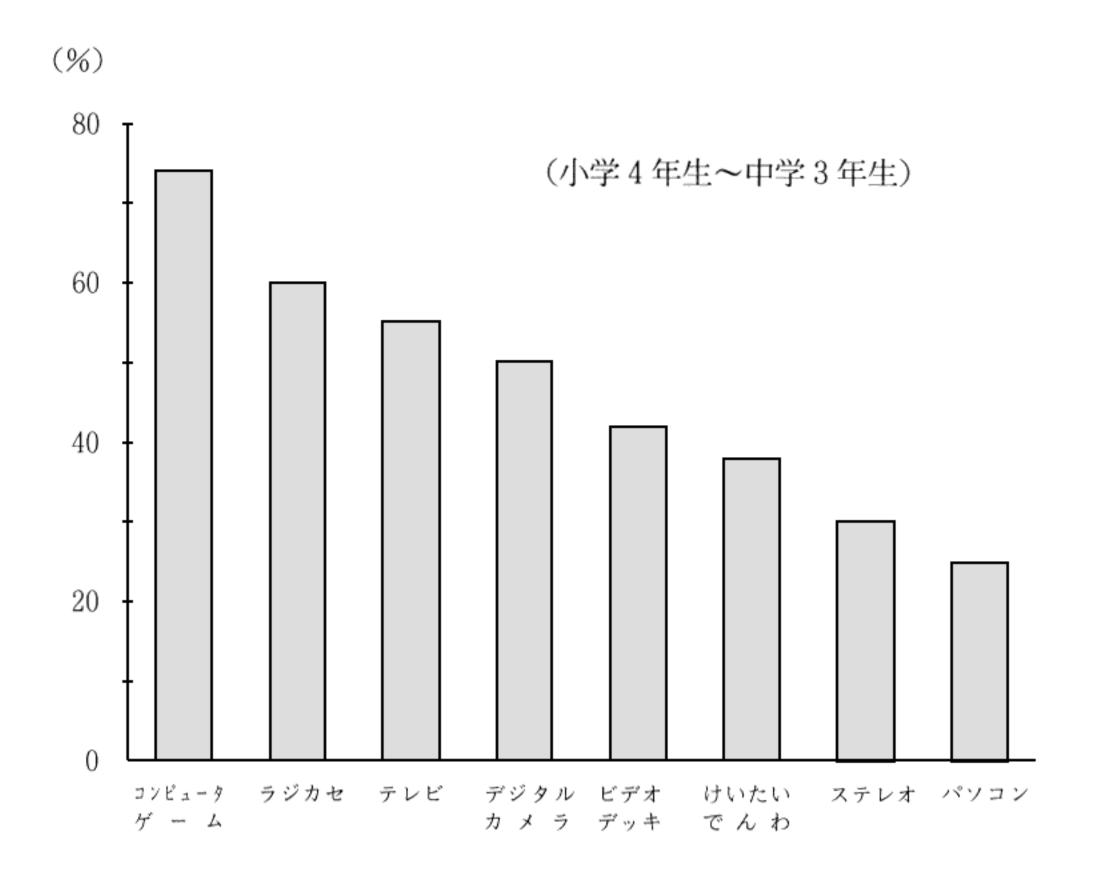
日本の高校生は将来何になりたいか

					男		子						女	子			
			1			2			3			1		2		3	
1 年生		サラ	リー・	マン	公	務	員	弁	護	士	事	務	保	母	看	護	婦
2 年生	. 4	公	務	員	システ	ム・エン	ジニア	ジャ	ーナリ	スト	事	務	スチュ	ュワーデス	デ	ザイ	ナー
3 年生	. 孝	教		師	ジャ	ーナリ	スト	政	治	家	スチュ	ュワーデス	教	師	システ	F4•I)	ジニア

- (1) 高校1年生男子は、なにに1番なりたいですか。
- (2) 高校2年生女子が、2番目になりたいのは、どんな人ですか。
- (3) 高校3年生の男子も女子も希望するのは、どんなしごとですか。

(資料を見てまとまった文で答える問題)

2. グラフを見て、日本の子どもたちが持っているものを書き、それについてあなたの考えを述べなさい。 (200字)



3. 表を見て、あなたの考えを書きなさい。(400字)

興味があること

	小 学 生	中 学 生	大 学 生
1	まんが、雑誌	高校進学	異性
2	ゲーム	友達	アルバイト
3	歌手やタレント	クラブ, サークル	フィットネス
4	友達	成績	クラブ, サークル
5	成績	歌手やタレント	就職
6	習い事	ゲーム	音楽
7	スポーツ	スポーツ	読書
8	クラブ	ボーイ/ガールフレンド	車, オートバイ
9	中学進学	習い事	タレント
10	きくしょ	読書	^{そっろん} 卒論

XII 視覚情報型

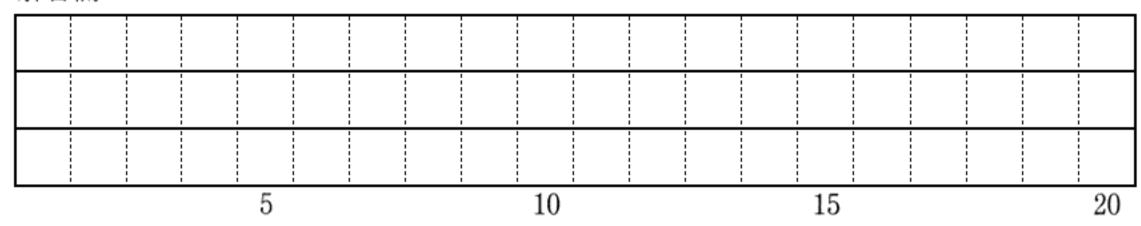
(視覚情報に基づいて答える問題)

1. 次の絵を見て、質問に答えなさい。



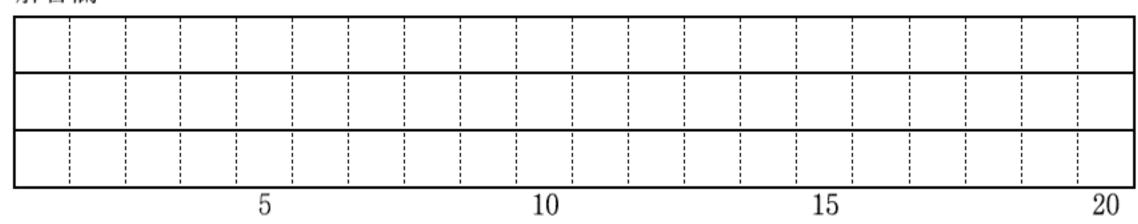
(1) 男の人は、なにをしましたか。





(2) 男の人は、なぜおこっていますか。

解答欄



XIV 要約型

1. 次の文を読んで、質問に答えなさい。(各50字)

学	親
休みの間に友達と2泊3日で、旅行に行きた	休みの間に家族で静かな山のホテルに行こう
いと思っています。場所は常名な海のリゾート	と思っています。そこは、まわりが森と湖なの
で、カラオケやゲームセンターもあります。お	でゆっくりできるし、お金もあまりかかりませ
金が莡りないので,お父さん/お母さんにおこ	ん。子供たちとゆっくり話すこともできるでしょ
づかいを足してもらおうと思っています。クラ	う。今年は新しい車を買ったので余分なお金は
スの友達が行くのでどうしても行きたいです。	ありません。

- (1) こどもは, なぜお金がほしいのですか。
- (2) 親は、なぜこどもにお金を与えたくないのですか。

基礎学力(数学)シラバス

試験の目的

この試験は、外国からの留学生が日本の大学の学部において勉学するに当たり必要とされる基礎的な学力 を測定することを目的とする。

試験は、文系学部及び理系学部のどちらにも必要な基礎的知識を測定する。試験は、文系学部及び数学を必要とする程度が比較的少ない理系学部用(コース1)と数学を高度に必要とする学部、例えば、理工系学部用(コース2)とを用意してあり、志望学部によって、そのいずれかを選択するものとする。

出題の内容は、項目ごとに分類され、それぞれの項目は、当該項目の主題又は主要な術語によって提示されている。

数学シラバス

1. 数と式

- (1) 実数【自然数,整数,有理数,無理数,絶対值,数直線】
- (2) 複素数*【共役複素数,絶対値,極形式,偏角,複素平面,ド・モアブル(de Moivre)の定理,1のn乗根】
- (3) 多項式(整式) 【因数分解,剰余定理と因数定理,二項定理】
- (4) 等式と不等式【恒等式,方程式と不等式の解,不等式の表す領域】
- (5) 連立方程式と連立不等式
- (6) 恒等式と不等式の証明【例:相加平均≥相乗平均】

2. 集合と論理

- (1) 必要(十分)条件と対偶
- (2) 集合についての基本的事項*【和集合と共通部分,補集合,ド・モルガン(de Morgan)の法則】
- 3. 関数とグラフ
 - (1) 関数についての基本的概念【定義域と値域,周期関数,合成関数,逆関数*】
 - (2) 関数のグラフ【関数とグラフの関係、グラフの平行移動】

4. 2次関数

- (1) 2次関数のグラフ【放物線の頂点と軸】
- (2) 2次方程式【解の公式、判別式、解と係数の関係、虚数】
- (3) 2次不等式
- 5. 分数関数(分母は1次式)【反比例、 $y=\frac{1}{x}$ のグラフ】
- 6. 指数関数と対数関数
 - (1) 指数の拡張【負の指数,有理数の指数,無理数の指数】
 - (2) 指数関数【指数法則, $y = a^x$ のグラフ】
 - (3) 対数関数【常用対数と自然対数、対数法則、 $y = \log_a x$ のグラフ】

7. 三角関数

- (1) 三角比【相互関係 $(\tan \theta = \frac{\sin \theta}{\cos \theta}, \sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1)$ 】
- (2) 三角比の応用【正弦定理,余弦定理,図形の性質,多角形の面積】
- (3) 三角関数*【加法定理,三角関数の合成,積と和の変換公式,弧度法,グラフ】

- 8. 無理関数(根号の中は 1 次式) * 【 $y=\sqrt{x}$ のグラフ,無理方程式と無理不等式】
- 9. 平面図形
 - (1) 座標系【直交座標,極座標*】
 - (2) 点と直線【2点間の距離,線分の内分点と外分点,直線の方程式,2直線の平行・垂直条件,点と直線の距離】
 - (3) 三角形【三角比の応用,重心・外心・内心,ピタゴラス(Pythagoras)の定理】
 - (4) 円【円とその接線の方程式,円周角と中心角,円と直線の位置関係,2円の位置関係】
- 10. 空間図形【球・円錐・角錐等の体積と表面積】

11. ベクトル*

- (1) 平面ベクトルと空間ベクトル【和とスカラー倍,内積,二つのベクトルのなす角】
- (2) ベクトルの応用【線分上の点の位置ベクトル,直線のベクトル方程式】

12. 行列*

- (1) 行列の計算【スカラー倍と和と積(3×3行列まで)】
- (2) 逆行列【2×2行列のみ】
- (3) 連立1次方程式への応用

13. 数列と級数

- (1) 等差数列と等比数列【一般項,有限項の和】
- (2) 数列 $\{n^2\}$, $\{n^3\}$ の有限和
- (3) 階差数列あるいは漸化式を用いて定義された簡単な数列*
- (4) 数列の極限とその性質*
- (5) 無限等比級数の和*

14. 微分法

- (1) 極限概念と導関数【微分係数,接線の傾き,極限の性質*】
- (2) n 次関数と分数関数の導関数【 x^n , $\frac{1}{x}$ の導関数】
- (3) 微分公式(その1)【和と差の微分】
- (4) 導関数の応用【関数の増減、関数の極大・極小、グラフの概形】
- (5) 微分公式(その2)*【積と商の微分,合成関数・逆関数・助変数表示された関数等の微分】
- (6) 無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の導関数*
- (7) 第2次導関数とその応用*【極値との関係,グラフの凹凸】

15. 積分法

- (1) 不定積分と定積分【原始関数、積分定数、微積分学の基本定理】
- (2) 積分の基本的性質【和と定数倍の積分,定積分における積分区間の分割】
- (3) 2次関数の積分
- (4) 定積分の応用 I 【図形の面積】
- (5) 関数 $x^n (n \ge 3)$, $\sin x$, $\cos x$, e^x の積分*
- (6) 簡単な置換積分と部分積分*【例: $\sin^2 x \cos x$, $x\sqrt{1-x}$, $\log x$ の積分】
- (7) 定積分の応用Ⅱ*【回転体の体積】

16. 順列と組合せ

- (1) 場合の数【樹形図,和の法則,積の法則】
- (2) 順列【"P,, 円順列, 重複順列】
- (3) 組合せ【"C,】

17. 確率

- (1) 試行と事象【独立試行と反復試行,和(積)事象,余事象,排反事象】
- (2) 確率の基本性質【確率の加法定理, 反復試行の確率, 条件付き確率*】
- (3) 期待値

注1:数学の試験は、「文系及び数学をそれほど必要としない理系対象」のコース1と「数学をかなり必要とする理系対象」のコース2に分けて行う。

注2:上記に掲げた項目の中で*印が付いているものは、コース2のみで出題される分野である。

注3:項目後の【】内は、その項目内で扱われる内容又は例示である。

数学 問題例

I 次のA~Dには、それぞれ、−(マイナスの符号 minus sign)、または、0から9までの数 (number) が一つずつ入る。あてはまるものを選びなさい。

放物線(parabola) $y = x^2 + ax + b$ の頂点(vertex)の座標(coordinate)が(1, -6)のとき, aの値 (value) は AB , bの値は CD である。

直線(straight line)y=x+2 と放物線 $y=x^2$ とで囲まれた図形(figure)の面積(area)は,次 のどれに等しいか。次の①~⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① $\int_{-1}^{2} (x^2 x 2) dx$
 - ② $\int_{-2}^{1} (x^2 x 2) dx$ ③ $\int_{-1}^{1} (x^2 x 2) dx$
- (4) $\int_{-1}^{2} (-x^2 + x + 2) dx$ (5) $\int_{-2}^{1} (-x^2 + x + 2) dx$

Ⅲ 次のE~Jには、それぞれ、0から9までの数が一つずつ入る。あてはまるものを選びなさい。

整数 (integer) x, y は次の式 (equation) を満たすとする。

$$xy - x + 2y - 8 = 0 \cdots$$

式①は

$$(x + \boxed{\mathrm{E}}) (y - \boxed{\mathrm{F}}) = \boxed{\mathrm{G}}$$

と変形(deform)することができる。このことから、式①を満たす整数x, y の組(pair)は全部で 個あることがわかる。それらのうちでxの値が最大(largest)であるのは、

$$oldsymbol{x} = oldsymbol{f I}$$
 , $oldsymbol{y} = oldsymbol{f J}$ の組である。

基礎学力(理科)シラバス

試験の目的

この試験は、外国からの留学生が日本の大学の学部において勉学するに当たり必要とされる理科科目の基 礎的な学力を測定することを目的とする。

試験は、物理・化学・生物で構成され、そのうちから2科目を選択するものとする。

出題の内容は、それぞれの科目において、項目ごとに分類され、それぞれの項目は、当該項目の主題又は 主要な術語によって提示されている。

物理シラバス

1. 力学

- (1) 運動の基礎概念【速さ,等速直線運動,速度,加速度,重力加速度,自由落下運動,放物運動】
- (2) 運動の3法則【慣性の法則,運動の法則,運動方程式,作用反作用の法則,内力と外力】
- (3) 力 【力,力の合成と分解,力のつり合い,重力,弾性力,フック(Hooke)の法則,張力と抗力, 静止摩擦,動摩擦】
- (4) 回転と力のモーメント【力のモーメント、剛体のつり合い、偶力、重心】
- (5) 単位系【基本単位と組み立て単位,国際単位系】
- (6) 運動量【運動量,力積,運動量変化と力積,運動量保存則】
- (7) 衝突【はねかえり係数, 弾性衝突と非弾性衝突】
- (8) 力学的エネルギー 【仕事,仕事率,重力による位置エネルギー,弾性力による位置エネルギー,仕事と運動エネルギー,力学的エネルギー,力学的エネルギーの保存則,摩擦によるエネルギー散逸】
- (9) 円運動【等速円運動, 周期, 角速度, 加速度, 向心力と遠心力】
- (10) 単振動【復元力,単振動,位相と振幅,振動数と周期,加速度,エネルギー,ばね振り子,単振り子】
- (11) 万有引力【天動説と地動説,ケプラー(Kepler)の法則,ニュートン(Newton)の万有引力の法則, 万有引力による位置エネルギー】
- (12) 圧力と浮力【流体の深さと圧力、パスカル(Pascal)の法則、浮力】

2. 熱学

- (1) 熱と温度【物質の3つの形態,熱運動,温度と温度計,熱平衡,熱の移動,熱容量】
- (2) 分子運動【圧力,ボイル・シャルル(Boyle-Charles)の法則,絶対温度】
- (3) 気体の圧力【モル,気体定数,状態方程式,理想気体,分子運動と圧力】
- (4) 内部エネルギー【ジュール(Joule)の実験,内部エネルギー,熱力学の第1法則,定積変化と定圧変化,p-Vグラフ,断熱変化,等温変化】
- (5) エネルギーの変換【不可逆な現象,熱機関,熱機関の効率】

3. 波動

- (1) 波の性質【媒質,振動,振幅,振動数,周期,波長,速さ,強さ,横波と縦波,正弦波,位相】
- (2) 波の伝わり方【重ね合わせの原理,干渉,定常波,腹と節,波面,ホイヘンス(Huygens)の原理,入射波と反射波,反射の法則,屈折,屈折の法則,回折】
- (3) 音【音波,音の3要素 [高さ,強さ,音色],空気中の音速,うなり,弦の基本振動と倍振動,気柱の固有振動,気柱の共鳴と共振,ドップラー(Doppler)効果】
- (4) 光【光波、光の速さ,偏光,光の反射と屈折,レンズ,焦点と焦点距離,実像と虚像,白色光と単色 光,スペクトル,回折と干渉,ヤング(Young)の実験,回折格子】

4. 電磁気学

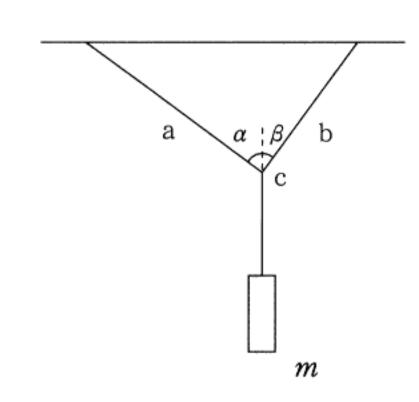
- (1) 電気力【摩擦と帯電,静電気力,電荷,クーロン(Coulomb)の法則,導体と絶縁体,自由電子, 伝導電子,静電誘導】
- (2) 電場(電界) 【電場,点電荷の周りの電場,重ね合わせの原理,電気力線】
- (3) 電位と電位差【電位と電位差、電圧、電位差と電気力のする仕事、電気力による位置エネルギー、一様な電場がする仕事、点電荷による電位、等電位面、等電位線】
- (4) 電場中の導体【導体の等電位性,静電遮蔽,接地】
- (5) コンデンサー【コンデンサー、電気容量、誘電体、誘電率、コンデンサーの接続、合成容量、コンデンサーに蓄えられるエネルギー】
- (6) 電流【電流,電圧,起電力,抵抗,オーム(Ohm)の法則,電流と仕事,電力,抵抗の接続,直流回路,キルヒホッフ(Kirchhoff)の第1,第2法則,電流計と電圧計】
- (7) 半導体【半導体、ダイオード、整流作用、トランジスター】
- (8) 磁場(磁界) 【磁場,電磁力,磁極,磁力線,磁束密度,磁場と電流の間の力,直線電流や円電流の作る磁場,単位系,透磁率】
- (9) 電磁誘導【ファラデー(Faraday)の実験,電磁誘導,誘導起電力,電磁誘導の法則,交流電圧・ 電流,電磁波】

5. 電子と原子

- (1) 電子【放電管,陰極線,電子,電場中の電子の運動,電気素量】
- (2) 原子の構造【原子核,原子番号,ボーア(Bohr)模型,定常状態,エネルギー準位】
- (3) 原子核の構成【陽子,中性子】
- (4) 放射線と放射能,核エネルギー【放射線,放射能,核エネルギー,原子炉,核分裂と核融合】
- (5) 電子の波動性【電子波,物質波】
- (6) 光の粒子性【光電効果,光子,仕事関数,光の2重性,X線,コンプトン(Compton)散乱】

物 問題例 理

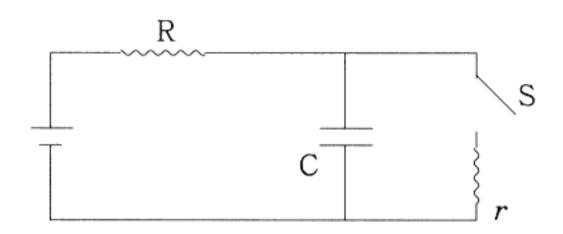
Ι

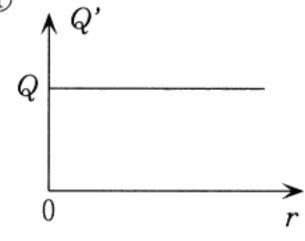


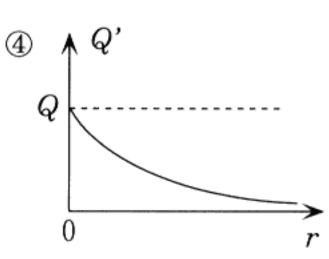
図のように3本のひも(strings) a, b, cによって質量 (mass) m のおもり (weight) がつり下げられている。図の角 α , β が $\alpha + \beta = 90^{\circ}$ で $\alpha > \beta$ のとき, それぞれのひもの張力 (tension) T_a , T_b , T_c の大小関係を表すものとして正しいもの を、次の①~④のうちから一つ選びなさい。

- ① $T_c > T_a > T_b$ ② $T_c > T_a > T_b$ ③ $T_c > T_a = T_b$

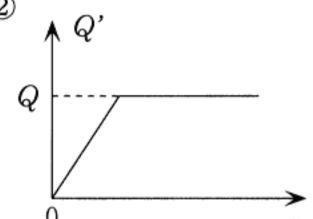
- 下図のようにコンデンサー(condenser, capacitor)Cと抵抗(resistor)R, rを電池(battery) につないだ回路(circuit)がある。はじめにスイッチ(switch)Sを開いたとき、コンデンサーCには 電気量(electric charge)Qがたくわえられていた。次にスイッチSをとじて長時間経過したときのC の電気量Qをrの関数と考える。rが変化したとき,Qの変化を表すグラフとして最も適当なものを, 次の①~④のうちから一つ選びなさい。



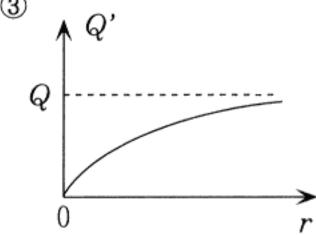




2



3

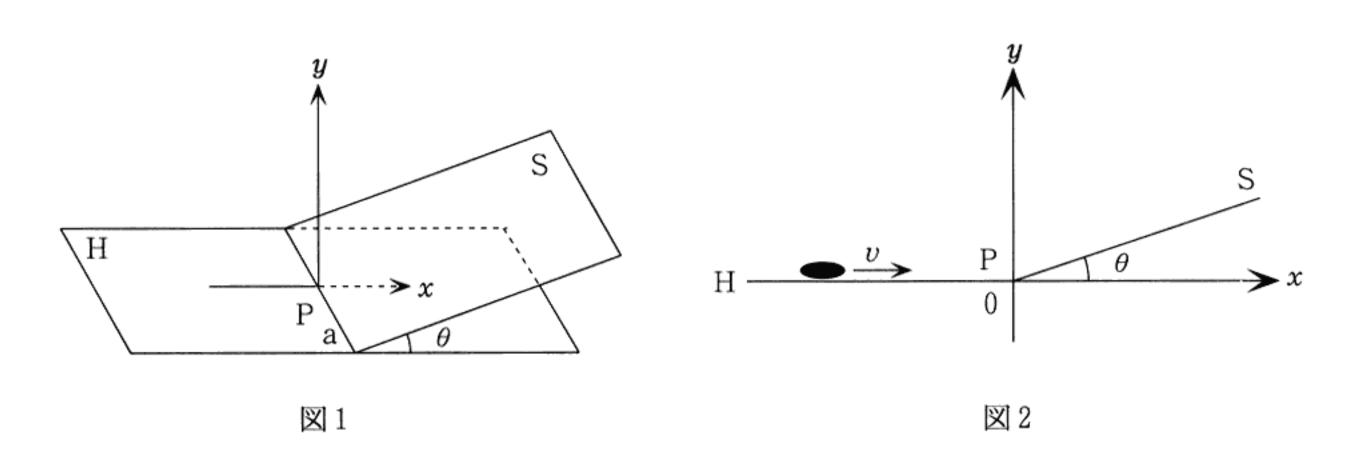


III 次の文章を読み,解答番号 $\begin{bmatrix} 1 \end{bmatrix}$ \sim $\begin{bmatrix} 6 \end{bmatrix}$ に入れるのに最も適当なものを解答群から選びなさい。

水平な平面(horizontal plane)日と,傾斜角(angle of inclination)が θ の斜面(slope)Sが図 1のように直線(straight line)aで交わっている。直線aに垂直(perpendicular)に平面日上にx 軸をとり,直線aとx 軸の交点をPとする。点Pを通り,鉛直(vertical)方向にy 軸をとる。図2のように点Pをx 軸とy 軸の原点(origin)とする。

図 2 のように質量 (mass) m の小物体 (small body) が平面日の上をx軸にそって,速さ (speed) v で左側から点 P へ向かってすべってくる。重力加速度 (gravitational acceleration) をg とする。

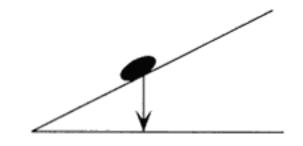
小物体は平面Hからはまさつ力(frictional force)を受けないが、斜面Sからはまさつ力を受けるとする。斜面Sと小物体の間の動まさつ係数(coefficient of kinetic friction)を μ とする。



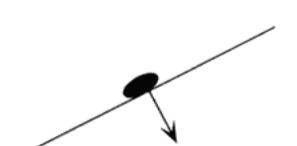
問 小物体は点Pで平面Hから速さvのまま斜面Sに移る。小物体が斜面Sを上りつつあるとき,小物体が斜面Sから受ける垂直抗力(normal counter-force)の向きを表す矢印(arrow)を正しく示している図は 1 ,まさつ力の向きを表す矢印を正しく示している図は 2 である。垂直抗力の大きさは 3 である。小物体が最高点(the highest point)に達して速さがゼロ(zero)になったときのx軸の座標(coordinate)は,x=4 である。小物体が点Pから斜面Sを移動して最高点に達するまでの間にまさつによって熱(heat)に変換された力学的エネルギーは 5 である。小物体が点Pから最高点に達し,下降して再び点Pにもどるまでの間の運動エネルギー(kinetic energy)の変化の様子をx座標を横軸(horizontal axis)に,運動エネルギーを縦軸(vertical axis)にとって表したグラフは 6 である。

解答群

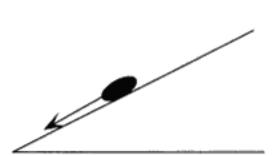
- 共通



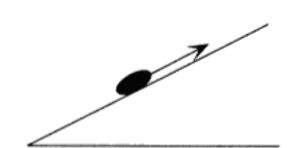
2



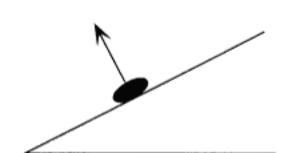
3



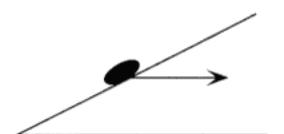
4



(5)



6



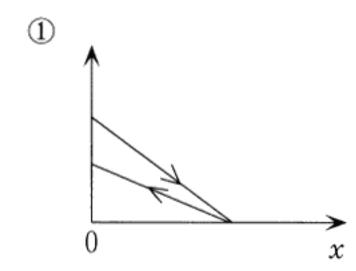
- $mg\cos\theta$ ② $mg\sin\theta$ ③ $mg\tan\theta$
- $\frac{mg}{\cos \theta}$

- $\frac{v^2\cos\theta}{2g(\mu+\sin\theta)}$
- $\frac{v^2}{2g(\mu\cos^2\theta+\tan\theta)}$

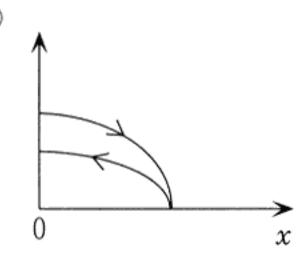
- $2g(\mu + \tan \theta)$
- $m\mu v^2$ $2(\mu + \tan \theta)$
- $m\mu v^2$ μ + tan θ
- $rac{m\mu v^2}{2(\mu\!+\!1)}$
- $\frac{m\mu v^2}{2(\mu\cos\theta+\tan\theta)}$ 4

- $\frac{m\mu v^2\cos\theta}{2(\mu+\tan\theta)}$
- $\frac{m\mu v^2\cos\theta}{2(\mu+\cos\theta)}$

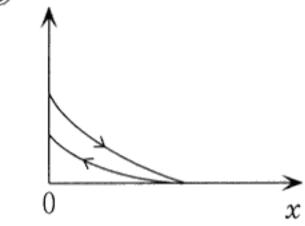
6



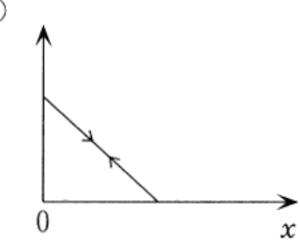
2



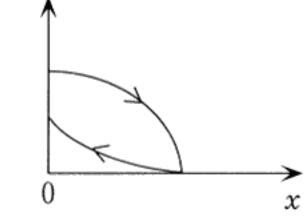
3



4



(5)



化学シラバス

I 物質の化学的性質

- 1. 無機物質
 - (1) 単体

典型元素の性質と周期表 第3周期までとK, Ca.

(2) 化合物

典型元素とその化合物

遷移元素とその化合物

Ag, Cu, Zn, Fe, Ni, Mn, Cr.

酸化物

水酸化物

(3) イオンの確認

Ag⁺, Cu²⁺, Zn²⁺, Ba²⁺, Ca²⁺, Sr²⁺, Mg²⁺, Na⁺, K⁺, Al³⁺, Pb²⁺, Fe²⁺, Fe³⁺, Cl⁻, SO₄²⁻, HCO₃⁻, I⁻.

代表的なイオンの反応

呈色反応, 沈殿反応

2. 有機物質

(1) 有機化合物の特徴

脂肪族,芳香族

有機化合物の組成,分子式の決定

有機化合物の構造と分類

構造式と異性体

(2) 炭素,水素,酸素からなる化合物

アルコール, エーテル

アルデヒド, ケトン

カルボン酸

フェノール

(3) 窒素を含む化合物

アミン

芳香族アミン, 芳香族ニトロ化合物

アミノ酸

- 3. 天然有機化合物と高分子化合物
 - (1) 天然有機化合物 炭水化物, 糖 油脂

アミノ酸

- (2) 天然高分子化合物 デンプン,セルロース タンパク質 天然ゴム
- (3) 合成高分子化合物 ポリエチレン ナイロン ポリ塩化ビニル ポリエステル
- 4. 有機化合物の反応
 - (1) 置換反応
 - (2) 付加反応
 - (3) 重合反応

Ⅱ 物質の状態

- 1. 純物質
 - (1) 物質の三態
 - (2) 融解,蒸発と融点,沸点
 - (3) 気体の状態式
- 2. 混合物
 - (1) 気体の分圧
 - (2) 溶液溶解と溶解度
 - (3) 希薄溶液の性質 沸点上昇 凝固点降下 浸透圧
 - (4) コロイド溶液 コロイド溶液の性質

Ⅲ 化学反応

- 1. 反応の速さ(定性的にのみ取り扱う)
 - (1) 速い反応と遅い反応
 - (2) 触媒
- 2. 化学反応と熱
 - (1) 反応熱
 - (2) 熱化学方程式
- 3. 化学平衡
 - (1) 可逆反応
 - (2) 化学平衡の移動
- 4. 酸と塩基の反応
 - (1) 酸, 塩基
 - (2) 中和
 - (3) 水素イオン濃度
- 5. 酸化, 還元反応
 - (1) 酸化, 還元
 - (2) 電気分解
 - (3) 金属のイオン化傾向
 - (4) 電池

IV 物質の構造

- 1. 原子の構造
 - (1) 原子の構造モデル
 - (2) 原子の電子配置
 - (3) 原子の構造と元素の周期表
- 2. 化学結合
 - (1) イオン結合
 - (2) 共有結合
 - (3) 物質の構造と性質

化 学 問題例

アルケン (alkene) Aの気体の試料 0.5 mol を完全燃焼 (complete combustion) させると 2.0 mol の水が得られる。

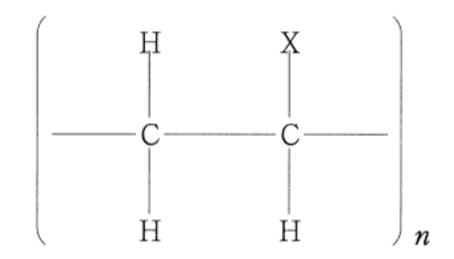
問1 このアルケンAの分子量はいくらか。正しいものを、次の①~⑧のうちから一つ選びなさい。

① 28 ② 48 ③ 52 ④ 56 ⑤ 60 ⑥ 70 ⑦ 80 ⑧ 90

問 2 このアルケンAにはいくつの異性体(isomers)があるか。正しいものを,次の①~8のうちから一つ選びなさい。

① 2 ② 3 ③ 4 ④ 5 ⑤ 6 ⑥ 7 ⑦ 0 ③ 9

問3 このアルケンAが付加重合(addition polymerization)を起こし、下記の一般式によって表示される高分子化合物(polymer compound)を得ることができるとすれば、この一般式(general formula)の中のXにふさわしいアルキル基(alkyl group)は次のどれか。正しいものを、次の①~⑧のうちから一つ選びなさい。



- ① H ② CH3 ③ C2H5 ④ C3H7
- (5) C₃ H₅ (6) C₄ H₉ (7) C₄ H₇ (8) C₅ H₁₁

生物シラバス

Ι 生物体の構造と機能

- 1. 細胞
 - (1) 細胞の構造と機能
 - (2) 細胞膜の性質
- 2. 細胞の増殖
 - (1) 体細胞分裂
- (2) 単細胞生物
- (3) 多細胞生物
- (4) 組織及び器官
- 3. 代謝と酵素
 - (1) 酵素の働き
 - (2) 酵素の性質
 - (3) 代謝とエネルギー
 - (4) ATPの生成
 - (5) ATPの利用
- 4. 同化と異化
 - (1) 光合成
 - (2) 化学合成
 - (3) 窒素同化
 - (4) 好気呼吸
 - (5) 嫌気呼吸

Ⅱ 生命の連続性

- 1. 生殖と受精
 - (1) 有性生殖と無性生殖
 - (2) 生殖細胞の形成
 - (3) 減数分裂
 - (4) 受精
 - (5) 生殖と生活環

2. 発生

- (1) 初期発生
- (2) 胚発生のしくみ
- (3) 植物の胚形成

3. 遺伝と変異

- (1) メンデルの実験
- (2) 遺伝の法則
- (3) 遺伝子と染色体
- (4) 性決定
- (5) 連続変異と不連続変異

4. 遺伝子の本体

- (1) 形質転換
- (2) 核酸
- (3) DNAの複製
- (4) 遺伝暗号

5. 形質発現のしくみ

- (1) 一遺伝子一酵素説
- (2) タンパク質の合成
- (3) 細胞分化
- (4) 形態形成

Ⅲ 生物と環境

- 1. 生物の反応と調節
 - (1) 刺激の受容
 - (2) 興奮伝達系
 - (3) 受容体
 - (4) 作動体
 - (5) 動物の行動

2. 恒常性

- (1) 内部環境
- (2) 体液の恒常性
- (3) ホルモンと自律神経との協調
- (4) 内部環境とその恒常性

- (5) 血糖量の調節
- 3. 生体防御とタンパク質
 - (1) 抗原抗体反応
 - (2) 抗体の構造
 - (3) 免疫
- 4. 植物の反応と調節
 - (1) 植物の反応
 - (2) 成長運動
 - (3) 花芽形成
 - (4) 植物ホルモン
- 5. 生態系と生物の集団
 - (1) 動物の集団
 - (2) 植物群落と遷移
 - (3) 生態系の概念
 - (4) 生物相互の関係
 - (5) 生態系のエネルギーの流れ
 - (6) 自然界の平衡と環境の保全

IV 生物の進化と系統

- 1. 生物の進化
 - (1) 生命の起源
 - (2) 生物界の変遷
 - (3) 進化の証拠
 - (4) 進化説
- 2. 生物の系統と分類
 - (1) 生物の分類
 - (2) 分類の単位としての「種」
 - (3) 生物の系統
 - (4) 系統樹

生 物 問題例

I 野生するオミナエシ科(Valerianaceae)の多年草(perennial plant)のプレクトリティス属の1種 (*Plectristis congesta*) には、翼のない実(wingless fruits)をつける個体と翼のある実(winged fruits)をつける個体がある。花の咲く前にこの草を野外から採ってきて、交配した。表1はその結果である。この結果をもとに、実の形態の表現型(phenotype)の遺伝様式(mode of inheritance)を考えなさい。

表1. 交配の結果

				F ₁ 個体の数			
交配番号	親			翼	あり	翼	なし
1.	翼あり#1	×	翼あり#1	8	2		0
2.	翼なし#2	×	翼なし#3		0	9	0
3.	翼あり#1	\times	翼なし#3	7	5		0
4.	翼あり#4	×	翼なし#2	4	3	4	1

☆ #1~#4は個体の識別記号 (differential number)

実の形態にかかわる遺伝子(genes)のうち、優性対立遺伝子(dominant allele)をD、劣性 (recessive)のそれをdで表す。次の $\boxed{1}$ ~ $\boxed{4}$ の問の答えを、それぞれの語群(①~⑤)のうちから一つ選びなさい。

- 3 翼あり#1個体の遺伝子型(genotype) はどれか。
 - ① DD ② Dd ③ dd ④ WW ⑤ ww
- 2 次の交配の結果として予期される(be expected)翼あり個体と翼なし個体の比率(ratio)はどれか。 ≪翼なし#2 × 翼あり#1≫

翼あり: 翼なし = ① 3:1 ② 1:2 ③ 1:1 ④ 1:0 ⑤ 0:1

3 次の交配の結果として予期される翼ありと翼なしの個体の比率はどれか。≪翼なし#3 × 翼あり#4≫

翼あり: 翼なし = ① 3:1 ② 1:3 ③ 1:1 ④ 1:4 ⑤ 1:6

と異型接合個体(heterozygotes)の予期される比率はどれか。
同型 : 異型 = ① 3:1 ② 1:1 ③ 9:1 ④ 1:0 ⑤ 0:1
Ⅱ 下記の問 1 ~問 2 の文章を読み,次の 5 ~ 6 に入れるのに最も適当なものを,各問題の下にあげた語群(1 ~⑤)のうちから一つ選びなさい。
問1 分裂組織(meristematic tissue)にある間期核(interphase nucleus)の中では 5 の複製(replication)がおこなわれる。
① 核小体(nucleolus) ② DNA ③ RNA ④ ミトコンドリア(mitochondoria) ⑤ タンパク質(protein)
問 2 体細胞分裂 (somatic cell division) の中期にはそれぞれの染色体 (chromosome) が細胞の赤 道面 (equatorial plane) にならぶ。このとき,一部の紡錘糸 (spindle fiber) が染色体上のくびれ (constriction) にある 6 に付着する。
 ① 中心体 (centrosome) ② グラナ (grana) ③ ゴルジ体 (Golgi body) ④ 動原体 (kinetochore) ⑤ 髄鞘 (ずいしょう marrow sheath)

翼あり#4の自家受粉 (selfing) によって得られるF₁世代の内の同型接合個体 (homozygotes)

基礎学力(総合科目)シラバス

試験の目的

試験科目「総合科目」は、多文化理解の視野からみた現代の世界と日本についてのテーマが中心となる。 その目的は、留学生が日本の大学で勉学に必要と考えられる現代日本についての基本的知識をもち、あわせて、近現代の国際社会の基本的問題について論理的に考え、判断する能力があるかを判定することにある。 具体的には、公民を中心として地理、歴史の3分野から総合的に出題される。出題の範囲は、以下の各分野における項目からなり、それぞれの項目は関連する主要な用語で示されている。

総合科目シラバス

I 公民

1. 現代の社会生活

都市化,情報化,高齢化,大衆社会,多文化理解,生命倫理,自由と平等

2. 現代の経済

市場経済体制、計画経済体制、経済成長、自由化・規制緩和、インフレーション、経済危機、社会福祉

3. 現代の政治

民主主義,政治参加,政党・選挙,議院内閣制と大統領制,憲法,行政国家化,人権

4. 現代の国際社会

集団安全保障,国民国家体制,地球環境問題,国連と国際機構,南北問題,開発援助,民族問題・紛争,NPO・NGO

Ⅱ 地 理

1. 地理的技能

地球、地図と図法、標準時、空中写真、GIS(地理情報システム)

2. 日本の国土と自然

気候, 地形, 植生, 地震, 火山

3. 日本の人々と産業

農林水産業, 商工業, 人口, 交通と通信, 貿易

Ⅲ 歴 史

1. 近代の世界

イギリス産業革命,アメリカ独立革命,フランス革命,アジアの植民地化,帝国主義

2. 現代の世界

第一次世界大戦,世界恐慌,第二次世界大戦,冷戦,アジアとアフリカ諸民族の独立運動

3. 近現代の日本

明治維新,近代日本の立憲政治と産業革命,戦後改革,経済成長,公害問題

総合科目 問題例

【経 済】

I 次の表Aは、アジアの10ヵ国・地域を、平均経済成長率の高い順に並べたものである。この表Aを見て下の問 $1 \sim 2$ に答えなさい。

国•地域名	1970	1980	1990	1995	1996	1997	平 均
а	13.7	9.7	9.0	8.8	7.0		9.6
マレイシア	_	7.4	9.7	9.5	8.6	7.8	8.6
中 国		7.8	3.8	10.5	9.5	8.8	8.1
インドネシア	7.5	9.9	7.2	8.2	8.0	4.6	7.6
台 湾	11.3	7.1	5.5	5.9	5.4	6.4	6.9
b	10.5	4.8	11.2	8.8	5.5	-0.4	6.7
С	8.8	-2.2	9.5	8.9	7.1	5.5	6.3
香 港	9.4	10.4	3.4	3.9	5.0	5.3	6.2
フィリピン	4.6	5.2	3.0	4.8	5.8	9.7	5.5
日 本	8.2	2.6	5.5	3.0	4.4	-0.4	3.9
世界平均	3.4	2.6	2.9	3.5	3.9	_	3.3

表A 各国・地域の経済成長率(rate of economic growth)(%)

- 問1 1997年に b の成長率はマイナスになった。その理由として正しいものを,次の①~④のうちから一 つ選びなさい。
 - ① 通貨(national currency)が切り下げられて,通貨不安が表面化した。
 - ② 労働運動(labor movements)が激しさを増し、多くの工場が閉鎖された。
 - ③ 自然災害により、農作物が大きな被害を受けた。
 - ④ 石油危機(oil crisis) によって、物価が急上昇した。
- 問2 表Aの中の空欄 a, b, c には,韓国,タイ,シンガポールのいずれかの国名が入る。その国名の組み合わせとして正しいものを,次の①~④のうちから一つ選びなさい。
 - ① a 韓国, b タイ, c シンガポール
 - ② a タイ, b シンガポール, c 韓国
 - ③ a シンガポール, b タイ, c 韓国
 - ④ a シンガポール, b 韓国, c タイ

【政 治】

Ⅱ 次の文章を読んで下の問に答えなさい。

日本の総人口に占める有権者の割合は、表Bが示すように、1889年に最初の衆議院議員総選挙(a general election)が行われて以来、増大してきている。

表B 総人口における有権者の比率

年	比 率 (%)
1889	1.1
1900	2.2
1919	5.5
1925	20.0
1945	48.7
1995	75.8

問 総人口に占める有権者の比率が、1945年に著しく増大した理由として最も適切なものを、次の①~④のうちから一つ選びなさい。

- ① 日本に住む外国人にも選挙権を与えたから
- ② 高い税金を納めていない人にも選挙権を与えたから
- ③ 女性にも選挙権を与えたから
- ④ 日本が戦争に敗れ、軍人以外にも選挙権を与えたから

【地 理】

Ⅲ 次の表Cを見て,下の文章の空欄 a,b にあてはまる都市を,①~④のうちから一つずつ選びなさい。

表C 4都市(①, ②, ③, ④) の月別平均降水量(mean monthly precipitation)

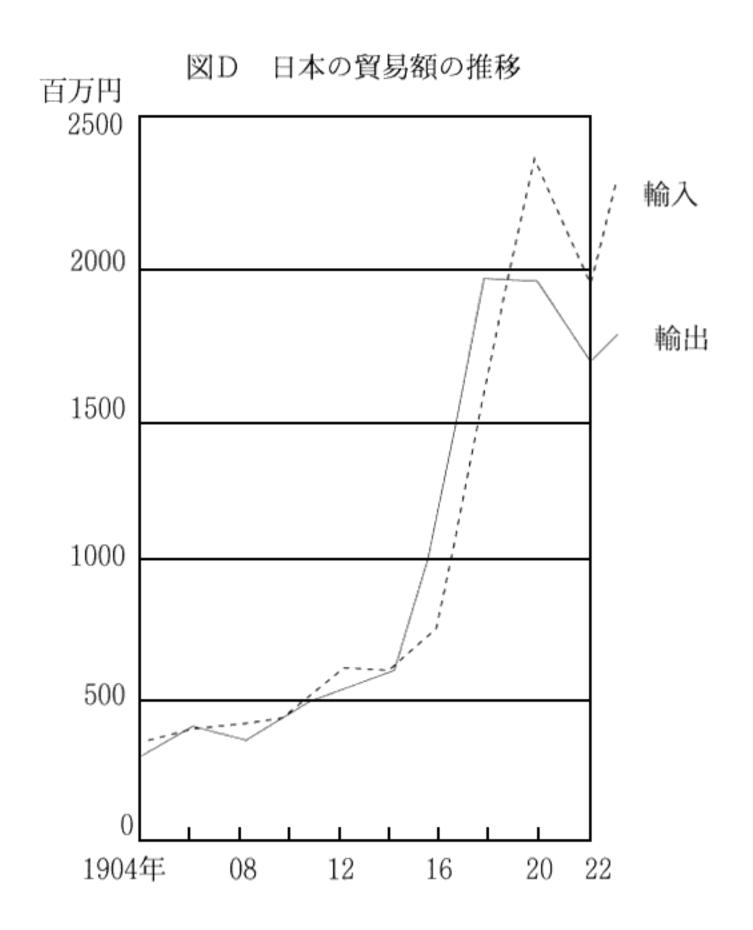
	1)	2	3	4
1月	293.1	113.0	107.6	45.1
2月	195.2	106.0	94.1	60.4
3月	156.5	162.0	81.8	99.5
4月	147.8	152.0	62.3	125.0
5月	150.0	243.2	54.8	138.0
6月	207.0	252.7	66.4	185.2
7月	250.7	190.2	68.7	126.1
8月	171.1	258.9	142.0	147.5
9月	247.5	168.0	137.7	179.8
10月	202.8	150.9	115.6	164.1
11月	265.3	116.9	98.5	89.1
12月	305.4	123.0	100.1	45.7
年	2592.6	2036.8	1129.6	1405.3

(単位:mm)

日本の気候は冬に特徴がある。特に日本海(the Sea of Japan)側と太平洋(the Pacific Ocean)側とで、降水量に違いが表れている。日本海側は、冬に大量の雪が降り、世界有数の豪雪地帯(heavy snowfall area)となる。太平洋側の冬は、からりと晴れた青空の下で、冷たく乾燥した北西の季節風(monsoon)が吹き、降水量はきわめて少ない。冬に降水量の多い都市は a であり、冬に降水量の少ない都市は b である。したがって、 a は日本海側にあり、 b は太平洋側にある。

【歴 史】

Ⅳ 次の図Dを参考にして、下の問1~2に答えなさい。



- 問1 図Dによれば、日本経済は、この時期、大きな変化をとげたことがわかるが、それはどのような事件 (戦争)によって影響を受けたのか。正しいものを、次の①~④のうちから一つ選びなさい。
 - ① クリミア戦争 (The Crimean War)
 - ② 第2次世界大戦 (The Second World War)
 - ③ 第1次世界大戦 (The First World War)
 - ④ ヴェトナム戦争 (The Vietnam War)
- 問2 問1の戦争の期間中、日本は重化学工業が大きく発達したが、日本の貿易はどのように推移したのか。 正しいものを、次の①~④のうちから一つ選びなさい。
 - ① 輸入は増加したが、輸出は減少し続けた。
 - ② 輸出は増加し続けたが、輸入を超えることはなかった。
 - ③ 輸出は増加したが、輸入は減少し続けた。
 - ④ 輸入は増加し続けたが、輸出を超えることはなかった。